

# 大麦特報 (第3号)

令和5年2月  
なのはな農業協同組合  
富山農林振興センター

一部で湿害による生育不良のほ場がみられます。ほ場を確認し、停滞水がみられる場合は排水対策を徹底し、根域をしっかりと確保しましょう。

分施肥体系で栽培している場合は、大麦の生育回復と穂数確保のため、遅れずに追肥を行いましょう。

## 1. 排水溝の点検・手直し

ほ場内に水が停滞すると、湿害により根の伸長が阻害されるため、生育不良になり、出穂後の登熟も悪くなります。

ほ場内の停滞水を速やかに排除するため、排水溝の手直しや深く掘り下げた排水口へ連結を徹底しましょう。

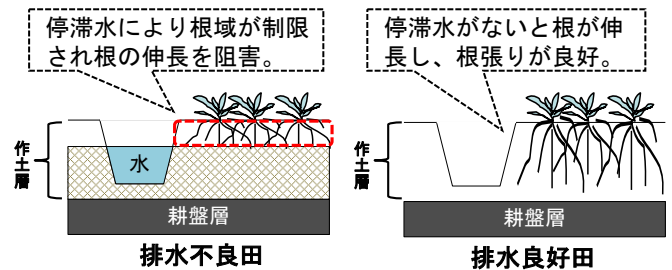
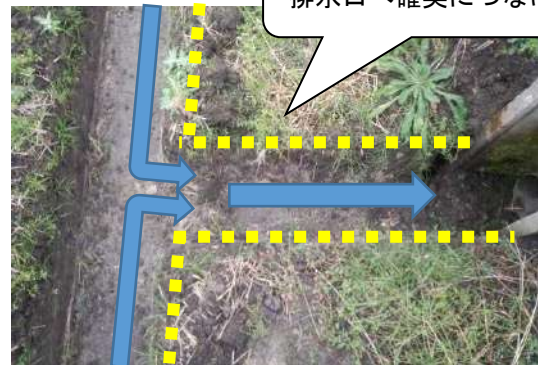


図 排水の良否と根の伸長のイメージ

湿害を受けると、根が張れず養分が吸収できないため、葉色が淡くなる



溝を連結し、掘り下げた排水口へ確実に繋げる



## 2. 消雪後の追肥 (分施肥体系のみ)

冬期間に消耗した大麦の生育を回復させ、適正な茎数、穂数を確保するため、追肥は遅れずに施用しましょう。

**時期** 3月上旬 (消雪後、速やかに)

**施用量** 硫安 20 kg/10 a

※条間の土が見えないような茎数が多いほ場は、施用量を減らしましょう。

※肥効調節型肥料(Jコート大麦48号)を施用したほ場では、原則として追肥の必要はありません。 (極端に葉色が淡い場合は、農協や農林振興センターにご相談ください。)